

親鸞さま、なぜお念仏なの？ - 出会おう、語ろう、今ここで -

親鸞聖人のご生涯(3)

藤谷知道

在家仏教

真理(法)は出家して究めるもの、それが仏教がたどってきた歴史でありま

在家仏教とは、煩惱に負けた者の居直り、ではあり

「恥ずべきこと」ではなく、如来の光明に摂取された

その一大転換が、六角堂の百日参籠の中から生まれ

千歳の暗室に射した光

29歳になった親鸞聖人は、聖徳太子ゆかりの六角堂で

その時、親鸞聖人は何を思い詰めていたのでしょうか。

い、出家しました。

親鸞聖人が百日参籠を決断した時の心情は、井上さんや林さんに通じるものがあ

六角堂の夢告

行者宿報設女犯(行者、宿報にて、たとい女犯すとも)

我成玉女身被犯(我、玉女の身となりて、犯せられん)

一生之間能莊嚴(二生の間、能く莊嚴して)

臨終引導生極楽(臨終に引導して、極楽に生ぜしむ)

われらの罪深さは個人的な努力を超えたもの、いかに誠実に、それをやめ、それから抜け出ようとして

業」であります。そんな罪業深き身を生きるしか術がない

救世菩薩から夢告を受けた聖人は、その足で法然上人を

よきひとのおおせ

「親鸞におきては、ただ念仏して、弥陀にたすけられ

う」(『歎異抄』)と、自分の歩む道が決まったのでした。

恵信尼との結婚

『親鸞聖人正明伝』には撰政・九条兼実と法然上人の信仰談義から、聖人の意

第七回

親鸞聖人のご生涯(4)

藤谷知道

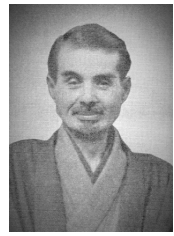
藤原正遠先生

藤谷純子

8月18日午後1時半

念仏生活を妙好人に学ぶ(6)

### 池山栄吉先生



藤谷純子

池山先生は大谷大学教授として赴任されたときに、信国先生も大谷大学に赴任して池山先生に出遇うことになる。

#### ○入信

池山先生は明治六年に東京の代々真宗の家庭に生まれ、特に篤信のお母様によって宗教性を養われた。お母さんが重病になった時に、小学生だった先生に向かつて「私は今度死ぬかも知れない。死ねばお浄土へ参らしていただく。おまえもご信心をいただいて後からおいで。そうでないと親子は一世というからこれ限りになる。ぜひ信心をいただかなくてはいけない。でもそういかなかつたら、いいや！私がお浄土から迎えに来てあげるから」とおっしゃったそうです。この言葉は先生の心に深くしみ込んで、親鸞聖人の信心の世界へと導いてくださる指標となった。昭和四年

池山先生四十二歳の時、ドイツ留学をして学んだ社会事業に失敗し、持病の療養もせねばならず、深刻な自己省察も深まって、「—自分のやったことの中で第一の動機は功名心であった。自己の利益を中心としたエゴイズム一点張りで、良心は無力で、私心ばかりに左右されているではないか—。こうした自分が名著を求めているが、もし誤って得られたとしても虚名に過ぎぬ—」と悟った。さらに自分の作る罪業の深さに落ち込んで絶望的になった時に、「ああ、まことの信心が欲しいな」と心の瞳をこらされたその時、『歎異抄』の「親鸞におきては、ただ念仏して弥陀にたすけられまいらすべしと、よき人の仰せをこうむりて信ずるほかに別の子細なきなり」というご文が胸に浮かび、その

時「そうだ！ここに親鸞とあるのを私とにおいて、よき人であるのを親鸞と読んで、口の中で繰り返し返した途端、まるで千仞の堤が切れたかのように、念仏がどつと口をついて出た、高らかに、よどみなく。光明は見えた。夜は明けた。確かに救いの綱が手に触れた。今の今まで心を閉ざしていた淋しさ、はかなさ、味気なさは、一声一声の念仏にかき消されて、それと入れかわりに、たのもしさ、ありがたさ、よろこばしさが潮のさすように心にみちわたるのを覚えた」と記している。

#### ○念仏のはたらき

念仏には自働作用（はからいをこえて一人働きをする）・洗悟作用（自分の本来の姿を映し出す鏡のはたらき）・自顕作用（ものごとを明らかにしてくる）・転化作用（自然に念仏の道理を展開していく）がある。念仏は、如来の本願を成就するための願力を具足しているからである。

#### ○池山先生の詩歌

たのまるるただ念仏のわれにありさるべき業はさもあらばあれ

惨憺たる悔いの残せし一一の

あとかたもなき無碍の一道

よき人の仰せにききて御名呼べば喚ばわせたもうみ声聞こえぬ

われならぬきよらのわれの

われにありて穢悪のわれを

われにしらしむ

久遠このかた子ゆえの回向

わたし一人をかたおもい

衆生かわいや生死の海に

のが罪から浮き沈み

あおむけに子犬ねころぶ

日向かな

#### ○池山先生最期の言葉

ああ、可哀そうに、南無阿弥陀仏

生きてやりたくても命がないでは仕方がないではないか。しっかりお念仏するんだ、しっかりお念仏するんだ、お念仏でどこまでも手をつないでい



南無阿弥陀仏

くんだ何も残るものはないただ念仏だけが残ってくれるただ念仏だけが残ってくれるえらいこったよ！ありがたいこったよとお苦しい中からも、お顔をほころばせてとぎれとぎれながらささやかれました。  
\*池山先生はお参りをする人々に「本当に親鸞聖人にお会いできましたか？ お会いしなければいけない」とおっしゃいます。一味の信心による出遇いを求めたのでした。だからその心がご家族に伝わって、家族の一人お一人が自然とお念仏を申されるようになったのでした。俱會一處させてくださるお念仏を教えてくださいました。